



「いぶりで、お酒は、うまくなる。」は地元のシニアソムリエが監修。



代表社員 鈴木 健一
すずき けんいち

Point

助成金を活用して、
事業展開の
スピードアップを
図ります。

秋田の「食良品」をプロデュース助成金で事業を加速

「食」を発信して県外需要を喚起

2019年設立のたからぼプロデュース合同会社は、秋田県の「食」をプロデュースする新しいタイプの会社。代表の鈴木健一さんは、航空業界の経験を持ち、全国の“美味しいもの”に親しんできた。人口減少が続く秋田県の未来を見据え、強みである食のクオリティを発信して県外需要を伸ばそうと一念発起。「コンセプトとターゲットを明確に定めて商品を企画し、“共感”を得られそうな問屋を選んで提案しています」と鈴木代表。工場を持たず製造を外部委託し、パッケージは自らがディレクションしている。きざみタイプやおつまみ向けのいぶりがっこは、無農薬・無添加という付加価値で、訴求力の高い商品に仕上げた。商品化の前には必ず、活性化センターの知財総合支援窓口を活用して商標調査を行い、原材料表示については県の担当部署に相談。工場を持たず、社員を抱えず、一人で何役もこなす。だからこそ、挑戦ができると鈴木代表は話す。

何かを“起こす”会社を目指す

同社は昨年、活性化センターの「ビジネスプラン応援事業」を活用し、自社のECサイトを開設した。現在は広告戦略を策定しながら、海外市場も視野に入れた事業拡大に向け、秋田ならではの食材を使用したペットフードを新たに開発中だ。商品PRにはプレスリリースを積極活用する。新聞記事は信用度が高く、営業ツールとしても活用できるからだ。効果的なプレスリリース手法を学び、掲載された記事をもとに手法のブラッシュアップを重ねた結果、徐々に掲載率が高まった。今後はそのノウハウを活かして他社の広報支援の事業も行う予定だ。

「事業を固定せず、時代のニーズを捉えて柔軟に、多角的に取り組んでいきたいです。商品を出すだけでなく、世の中に何かを“起こす”会社を目指します」。

センター活用事例

[助成金活用]

たからぼプロデュース合同会社

〒014-0024 秋田県大仙市大曲中通町7-15 コレクトビル2F
TEL.090-6623-4147
<https://takalabopro.com>

たからぼプロデュース直営通販サイト こだわり食楽ネット
@kodawari_shokuraku_net



現在は、大仙市のシェアオフィスを拠点に運営している。

活用事例

ビジネスプラン応援事業[助成金]

新たに起業を予定している方、新しく別の事業を始めたい方が行う、事業プラン実現に向けた取り組みを最大3年間支援します。

【お問い合わせ】 総合相談課 TEL.018-860-5610